

【平成20年11月 長崎県議会定例会 平成20年12月2日】

(小林克敏君) 大村市選出の小林克敏でございます。

…………… (中略) ……………

県が1億円支援したバイオラボの倒産について、お尋ねいたします。

…………… (中略) ……………

先月20日からは、会派を越えた異例の17名の議員団による中国バイオラボ研究所の現地調査を行ってまいったのであります。今回の調査活動を通じて、バイオラボの事業計画、また、事業のあり方について、そのずさんさが改めて浮き彫りになったのであります。

…………… (中略) ……………

以上で、主質問を終わります。

(中山功君)

…………… (前略) ……………

先日、超党派の県議団で中国にチャイナバイオラボを視察した際、その対応が一部長崎新聞等で報道されましたけれども、非常に私は不誠実だったなというふうに思っております。

…………… (後略) ……………

【平成20年11月 長崎県議会定例会 平成20年12月4日】

(小林克敏君) 同僚松田議員のバイオラボ社の質問に関連してお尋ねをいたします。

知事、朝からまことに申しわけないが、少し嫌なことも言います。よろしくお願ひしたいと思いますが。

このバイオラボ社の話を議会側から質問をしたりしますと、非常にあなたが、ころっと顔をしかめる。いつも笑顔でかわいい顔をされているあなたが、(笑声) バイオラボ社の話を聞くと、ものすごくしかめて、内心はぐらぐらにたぎっているんじゃないかと、こう思われるわけです。知事は自分のお顔はおわかりにならぬと思いますが、我々の方から見ればみんなそうなんです。

…………… (中略) ……………

そこで、時間もないから言いますけれども、このバイオラボ社の話をしますと、例えば知事を揺さぶっているのではないかと、だれか国会議員を揺さぶっているのではないかと、こんな低次元の話をもって、この辺の位置づけをしようとするような話があれば、極めてこれは失礼な話であって、こういう話は断じて私自身の願ひでもなければ、だれの願ひでもないだろうと、こういうことをまず受け止めてもらいたいと思います。

…………… (後略) ……………

(佐藤了君) 松田議員のバイオラボの質問に関連して質問いたします。今、小林克敏議員も関連質問されましたので、簡略にいきたいと思いますが。

これは、言葉がちょっと悪いかもかもしれませんが、久木野という大学教授、あえて大学教授と言いますが、これは相当な悪ですね。もしこの言葉がだめだということで、私を糾弾すると弁護士を立てて言うてくるなら、大いに結構だと思いますが、そのことを含んで私は一つ言いたいと思います。

先般、私も中国と一緒に視察に行きました。その時のことをちょっとご報告を、ほかの議員の皆さんにもしたいと思うんですがね。

たまたま、十数名の議員とずっと玄関口に入って行った時に、私は、外の写真を撮ろうと、これはいい加減な建物だなと思って写真を撮っていたんです。すると、入り口のところで、知り合いの

新聞記者が、片手を握られて止められているんです。何をしているのかなと思って私は行って、どうしたんだと言ったら、入れないというわけです、中に。新聞記者を入れないと。弁護士なんですよ。

なんで弁護士がここに来たのかと、君はどういう責任で。我々は議員として来ている、これは委員会に来ていないわけじゃないんだけど、県民に報告する義務があると。1億円という出資の問題もありますし、そのことを報告する義務がある。その上で、長崎から新聞記者も1人来ていると。それを入れないと。

なんで君は入れないのかと言ったら、その答えが、とにかく自分は、議員は見えていいけれども、マスコミは入れないと。長崎本社でもそれをやったんですね。失礼なことを言うなど。我々は、報告しなければと。腕をつかまれている記者も、一生懸命そのことを言っていました。我々は県民に報告する義務があるんだということを一生懸命言っているんですけど、放さないんですよ。

私が論争しているのを見て、中に入っていたほかの議員もおかしいということでわんわん言い出して、その時、マスコミも見せないというそういう態度を私はやっぱり県民に知らせるべきだと思ったから、引き上げようということで、皆さんそういう意見になってバスに乗ったわけです。一応、玄関には入ったんですよ、中を見て。

そういう状況を見ていて、弁護士まで連れてきてマスコミを入れないという態度とか、これは悪いと。

中に入ったって、がらんどうですから、そこで1枚、写真を撮っているんですが、そういうことで私は腕を握っている写真も撮ってきました。

そういうことを久木野氏が言うというのは、大変失礼だと。百条委員会を開くぞと、バスに乗ってきてから、今度は見せませんからと言うんです、長崎で聞いたら。こういう態度はね、まさにもう県民を愚弄して、県を愚弄して、議員を愚弄しているのと同じことなんです。

このことについて多くを言いませんが、藤井副知事でいいですが、これからの問題もありますから、どういう考えを思いますか。

(橋本希俊君) そもそも、大学等発ベンチャーが、制度設計もよくなされないままにスタートしたのではないかという疑問がこれから残ると思っておりますが、大学教授は兼業の形で社長を務めることにはかなりの無理があると、そのことが今回のバイオラボの調査の中で、我々としてはそういう受け止め方をせざるを得ない状況にだんだんできております。

「ジキル博士とハイド氏」です、この方は。自分が開発した薬を飲んで善と悪を使い分けていると、そういう感じがしないでもないというか、むしろ、私は上海に調査に行きまして、非常に問題を感じました。

私は9月定例会の関連質問で、「第三者委員会を立ち上げて、この制度そのものも含めて検討すべきではないか」ということでお尋ねしましたが、その後は何らそれに答えるようなことはなくて、この一般質問に入ってから担当部局の方に確認したけれども、「その意図はない」ということを言っておられたんですが、昨日でしたか、答弁で、それをやると、早急にやると知事は認められた。

…………… (後略) ……………

(末次精一君)

…………… (前略) ……………

バイオラボに関しても、賛同した議会の責任と言われますけれども、その前提に対して、県が示した情報というのが本当にすべてだったのかと、都合のいいことではなかったのかと、(発言する者あり) 私は経済を専門にしていますので、そういうことがよく見えるわけです。(発言する者あり)

…………… (後略) ……………